

土浦市で発見された力士の埴輪

今年の 5 月、土浦市出身の高安関が大関に昇進し、市内は大いに盛り上がっています。今後、益々の活躍が期待されますが、なんと土浦市街地を臨む台地に築かれた古墳から、力士をかたどった埴輪はにわが発見されていたのです。※ 埴輪は腹が大きく膨らんだ体型で、腰にはふんどし（まわし）の横帯があり、力士の特徴を捉えています。おそらく土俵入りのポーズでしょう。このような力士の埴輪は、全国で約 30 体発見されています。時期は 5 世紀の後半から 6 世紀の終わり頃で、この埴輪も 6 世紀前半に作られたと思われます。

5 世紀の日本は、朝鮮半島との交流が活発になり、大陸や朝鮮半島の数多くの文化や技術がもたらされました。その流れの中で相撲も伝来したと考えられています。中国や朝鮮半島の遺跡から相撲の壁画へきがが発見されていることから、源流は大陸にあったと思われます。

古墳時代の力士は、鎮魂などの葬送儀礼や悪霊退散などの祭祀にかかわる存在であったと云われています。

今回紹介した力士の埴輪は、7 月 22 日から 8 月 31 日まで上高津貝塚ふるさと歴史の広場で開催している夏休みファミリーミュージアム「どきどきつちうら場所」にて展示しています。ほかにも市内遺跡から発見された名品を展示していますのでぜひご覧ください。

※埴輪は下高津一丁目にある高津天神山古墳たかつてんじんやまこふんから発見されたと云われています。円墳で、規模は径約 14m、高さ 3.4m です。



力士の埴輪

(伝) 高津天神山古墳出土